



## 再開に向けて～交流員の取り組み～

本館リバーホールの天井には色とりどりの鶴が飾られています。その数、5,670（コロナゼロ）羽です。

新型コロナウイルスの影響で、休館を余儀なくされ、その間に何かできないかと試行錯誤していたところ、あるスタッフから「折り紙で鶴を折って飾ってみませんか？」との提案がありました。せっかくなら意味ある数字にしたいと考え、5,670（コロナゼロ）羽まで鶴を折りました。17本の紐を使用して吊るされた5,670羽の鶴が舞う姿は圧巻で、お客様に見えていただける日が来ないものかと開館が待ち遠しかったです。

また、この休館中にワークショップの模様替えも行いました。ワークショップ内にある「荒川の石」コーナーでは石のアートや砂絵もスタッフが作成から展示まで行っています。ぜひ覗いてみてください。

また本館外では、「アニマルビンゴ」も実施しています。こちらも、お子様が外で遊べるものを！

ということで、スタッフが考案から作成まで行いました。作成にあたり、スタッフが動物の足跡を忠実に木の板にペンキで描きました。広い敷地内で全部みつけるのは大変かもしれませんが、子どもたちは外を駆け回り、楽しんでいるようです。

今後も、制限された中でも楽しんでいただけるようにスタッフ一同取り組んで参ります。



ワークショップ内展示ケース

(交流員リーダー 神保敏子)

## 学芸員コラム お散歩中に探してみよう！ 雨水のゆくえ

みなさんは街に降った雨水が、どこへ行くのか考えたことはありますか？

最終的には雨水は河川へと流れていくのですが、河川より低い土地に集まった雨水は、ポンプ場で汲み上げられてから河川へと放流されます。また、地域によっては下水処理場に雨水も集められます。

実は、このポンプ場ではたくさんの機械が働いていることをみなさんはご存じですか？

雨水がポンプで汲み上げられる際は、ごみや流木などが詰まってポンプが壊れないように除塵機やスクリーンと言われるごみを取り除く機械を通します。ちなみに除塵機はベルトコンベア式になっており、引っかけたごみはコンベアによってごみ捨て場まで自動で運ばれていきます。

また、ポンプにもサイズがあります。ポンプの配管だけで大きいものはなんと直径が2メートル以上もあり、大人の身長よりも大きいのです。ちなみに家蛇口の口径は直径約2センチメートルほどが多いです。ポンプで汲み上げられた水は、

水門を通過して河川へと放流されるのですが、大雨時は河川へと放流しないよう水門を閉めることもあります。水門も手動で開けるタイプがありますが、大雨の中を川の近くにある水門まで行くのは危ない場合もあるので、遠隔で開閉操作が出来る水門もあります。

このように雨水を処理するだけでもごみを取り除く除塵機や水を汲み上げるポンプ、水門など様々な機械や設備を利用しているのです。



写真はベルトコンベアです。運ばれたごみは、そのままトラックの荷台に落として回収出来ます。

(研究交流員部 室井美穂)



学芸員コラム

## お散歩中に探してみよう！ 坂道のふしぎ

写真①を見てください。この写真は、当館の裏にある急な坂道です。当館に来館されたことがある方はご存じかと思いますが、車で来館されても、歩いて来館されても、必ず急な坂道を下りないと当館にたどりつくことができません。

皆さんがお住まいの地域にも坂道があるかもしれません。それら坂道はなぜあるのか考えてみたことはありますか？ それら坂道があるのにはちゃんと理由があるのです。

先ほど紹介した当館裏の坂道の場合はどうでしょう。この坂道は、当館周辺の地形が大きく関係してきます。当館の周辺には、河岸段丘という、川と関係の深い地形が見られます。河岸段丘は、平らな面（段丘面）と、崖の部分（段丘崖）から構成されます。当館の裏にも高低差約10mの崖がありますが、これが段丘崖にあたります。そしてこの段丘崖を一気に上り下りしないとイケないのでは先程紹介したような急な坂道が登場するのです。

今度は写真②を見てください。これは川越市内の新興住宅地内の坂道です。台地上の平らな土地に区画整理された住宅地内になぜこのような坂道があるのでしょうか？ これもこの住宅地が整備された場所の地形が大きく関係します。実は一見平らに見えるこの地域も、この周辺だけは浅い谷になっているため、坂道が登場するのです。

今回紹介したように、坂道がある場所には、その坂道ができた理由が存在しています。それは決して地形的な問題というだけでなく、その街の誕生の経緯等が関係してくる場合もあります。皆さんも散歩の途中で坂道に遭遇したら、どうしてその坂道があるのか考えてみませんか？ 地元の地形や歴史について知るきっかけになるかもしれません。



写真①：当館裏の急な坂道



写真②：新興住宅地内の坂道

(研究交流部 羽田武朗)

学芸員コラム

## お散歩中に観察できる街の生きもの

今年の春は会社や学校の休みが長く続き、身近な散歩コースを開拓した方も多かったのではないのでしょうか。そこでみられる身近な爬虫類に注目しました。静かな散歩道でカサカサッと草や落ち葉の音を聞いたことはありませんか？ ニホンカナヘビが、人の気配を感じてさっと逃げた音かもしれません。名はヘビですがトカゲのなかまで、身近に観察できる爬虫類として子どもたちにもおなじみです。主に草むらを生活の場としますが、人の手の入った環境でもよく見られます。公園・緑地、民家の植え込み、畑、花壇など、日当たりがよく、緑が多い環境であれば都市部でも見られます。やや自然度が高い環境に生息するヒガシニホント

カゲはやや太く艶がある体つきですが、ニホンカナヘビはスリムで艶が無くカサカサした体つきです。よく見ると小さな恐竜のようで、とても魅力的です。



ニホンカナヘビ

(研究交流部 藤田宏之)